

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590400071		
法人名	社会福祉法人 つばめ福祉会		
事業所名	グループホーム保内の杜		
所在地	新潟県三条市上保内乙533番地7		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成19年3月、1階に小規模多機能型居宅介護事業所を開設し、3年が経過した平成22年4月、2階に1ユニットのグループホーム保内の杜を開所いたしました。小規模多機能型居宅介護事業所の活動において、地域行事への参加も積極的に取り組める環境にあり、地域密着型サービスの役割をさらに広げて展開しています。

2階のグループホームはフロアから居室まで全面畳張りで、高齢者には落ち着ける環境に整備しています。また、2階からの緑豊かな眺めも穏やかな雰囲気を醸し出してくれます。

今後、1・2階のお客様の関係をつなぎ、各々ができることを伸ばし、助け合える支援や併設事業所の利点を組み合わせて、事業の一体化に取り組んでいきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは閑静な住宅街の中に建てられており、その民家風の外観は周辺の環境に馴染んでいる。平成19年に小規模多機能型居宅介護事業所が開設、それに併設する形で平成22年4月に開設されたホームであり、ともに地域の重要な社会資源となっている。

小規模多機能型居宅介護事業所開設時から地域との関係作りに意欲的に取り組んでいる。運営推進会議には、家族や地域の代表者、市町村関係者のほか、地域の小学校の校長にも委員として参加してもらったり、運営推進会議委員から避難訓練の実施に関わってもらおうなどの活動を通して、地域の声を積極的に運営に取り入れるよう努めている。また、地元園芸組合の協力を得て事業所の庭を整備し住民に開放しており、地域の催しである「オープンガーデン巡り」の対象にもなっているため、市民とも自然な形で交流がなされている。

職員は利用者に「寄り添う介護」を目指し、日々話し合いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。職員は生き生きとケアにあたっており、管理者は、時に職員自身が「気づく」ことを待ち、職員自身が成長していけるよう見守りながら助言・指導を行っている。「職員が夢を持ってこれから様々な経験を重ね、チームで作り上げていく『グループホーム保内の杜』を目指して行きたい」という管理者の言葉からも前向きな意気込みを感じることができた事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「尊厳を守る組織」に添って、援助計画や行事計画の立案時、また日常のケアにおいて、常にお客様を主体に、尊厳を守っているかを考え、立ち返る習慣ができてきた。事業所内でも、「その人を知る」と「気持ちのいい杜」をキーワードとして共有している。	法人理念に基づき、「利用者の自立支援」と「利用者・家族、地域社会の満足の提供」をスローガンとして掲げている。理念に基づいて、「その人を知る」「気持ちのいい杜」という具体的なケア目標を立て、職員は日々の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の夏まつりでは、地域の皆様から協力を得て、企画の段階から一緒に作りあげている。また、地域行事にも積極的に参加し、地域住民との交流の機会を増やしている。	事業所の夏祭りは、企画の段階から地域住民と一緒に取り組んでいる。また、地域の行事にも参加したり、地元園芸組合と一緒に庭造りを行うなどの活動を通じて、地域とのつながりを深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小中学校から、授業の一環として、事業に対しての質問を受け、情報交換を行いながら、交流の場としている。また、地域の皆様から相談があった場合も、お客様やご家族の思いを重視し、介護のポイントをお伝えしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動内容や事故の状況報告に対して、率直な意見をいただき、新たな気づきの場となっている。また、地域の行事予定や情報の収集ができる点と、地域自治体や小中学校、市との連携体制の確認や強化を図るための良い場面として活用している。	家族、自治会、小学校、地域包括支援センター、市担当者等を委員として2ヶ月に1回開催し、活動報告や意見交換を行っている。委員からはホームの避難訓練にも参加してもらっている。	今後、会議での検討内容や提案、気づきなどが職員に周知され、それに基づき改善されたことや実践状況を運営推進会議で報告しフィードバックするというサイクルを作ることで、さらなるサービスの質の向上が期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開設当初は、請求業務における不明点や問題点の回答及び助言をいただいた。また、地域活動の情報もいち早く届き、協力関係はできている。	市の担当者とは、運営上で不安なことや不明点を照会したり、情報交換など、日常的にメールでやり取りをしている。また、管理者が市の介護認定審査会の委員を努めたり、市主催の認知症フォーラムへの参加などを通じて協力関係を構築している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	環境設定において、安全策を踏まえて、身体拘束の行為に当たらないかを常に考えた取り組みができている。職員は拘束をしないための取り組みや工夫を検討している。	法人全体で「身体拘束をしないケア」を宣言し、禁止の対象となる具体的な行為についての理解と実践に取り組んでいる。法人全体の新人研修や事業所での新人研修でも身体拘束について取り上げ職員の理解を深めている。日常生活のなかで気付いたことはミーティングでも話し合われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画において、1月に学習会の実施を予定している。毎月の事業所会議では、日々の接遇面から、心理的虐待に関する問題点はないか、振り返りの機会としている。	法人全体の研修や事業所での勉強会を実施し、虐待防止関連法の理解を深めている。毎月の事業所会議で利用者への言葉や態度について話し合い、どんな小さなことでも職員からでた気付きは全員で共有し、不適切なケアがないよう取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて情報提供できるように、制度の申請手続きを行った職員と確認し合っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前・契約時も、分かりやすい説明に心がけている。お客様、またはご家族も納得の上で利用ができるように、料金説明や援助計画等について、話し合いの機会を重ねている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望を言える機会として、多くの行事を設定しながら参加を促してきたが、参加ご家族が少なく、さらに工夫を必要としている。	利用開始時のアセスメントの際に意見や要望を聞き取ったり、家族に行事の参加を呼びかけ、意見を聞けるよう働きかけているが、参加される家族が少なく、意見や要望を把握して運営に反映するには至っていない。	行事への参加や面会の折に意見を聞くことと併せて、利用者・家族との定期的な個別面談やアンケート調査など多様な方法を検討することが望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所会議において、職員から議題提起できる仕組みをとっている。管理者は法人在宅部門管理者会議において、事業所の問題点や課題を提起し、検討・協議を行い、対応できる体制を整えている。	毎月の事業所会議は予め年間計画で開催日を決め、職員が参加しやすいようにしている。職員から募った議題に基づいて話し合い、そこで出された意見や提案、課題等は法人の管理者会議で検討し対応する仕組みとなっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や意欲の向上を目的とした人事考課制度が導入され、個人目標を管理している。事業所でも、勤務実態調査・ノー残業デーを実施し、業務の標準化や時間管理の意識強化を図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人目標管理シートから、各職員の目標に沿って、研修参加の機会を情報提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の研修に参加することができた。今後は法人内での勉強会も計画し、お客様一人ひとりの能力を活かした支援方法を学んでいく予定である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開所当初は、経験ある職員を配置し、事前の情報や面接時の情報を基に、お客様の望む生活の聴き取りに努め、信頼関係を築いてきた。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅サービスであり、ご家族との関係性が途切れないように支援することを目的としている事を説明している。その際には、ご家族の不安や苦勞も受け止めるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの機能や特徴を説明しながら、お客様やご家族の望むサービス内容を確認し、見極めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する環境を目指しながらも、お客様のできることを職員が行っている場面があるため、お客様主体の共同生活支援になるよう、検討を行っている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や定期的な受診の機会、またサービス担当者会議の際に、ご家族の意向や苦勞を受け止め、仲介役になれるよう職員間で共有している。	家族にサービス担当者会議への参加を促したり、面会や受診等の機会をとらえて本人の日ごろの様子を伝えている。家族の思いを職員で共有し、本人を支えていくためのよりよい関係作りに努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や他親族の協力によって、外出や面会の機会もあるが、事業所の取り組みとしては今後の課題である。	利用者一人ひとりが築いてきた人間関係や馴染みの場所などについて、家族から情報を得て把握に努めている。馴染みのスーパー等への外出を支援したり、個別の外出希望には家族の協力も得ている。また、人間関係が継続されるよう親類や家族等に面会を働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	お客様の生活の場であることを念頭に、関係 性や相性を考慮している。職員はお客様 の媒介となり、孤立やトラブルの未然防止に 努め、お客様同士、楽しく会話ができる環境 を目指している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点では、4月の開所からサービスの終 了や転向はないが、併設の小規模多機能 同様に築きあげた関係性を継続できるように 望んでいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	お客様担当職員が主となり、必要に応じて センター方式のアセスメントシートを活用し、 情報収集に心がけ、お客様の思いや意向を 共有できるように努めている。	担当職員が、日々の関わりの中で本人が言ったこ とや本人の様子を観察することで把握したことをセ ンター方式のアセスメントシートを活用して記録し、 職員間で共有している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	日常的な会話やご家族との会話から情報収 集に努めている。今後、ご家族とのコミュニ ケーションの機会を増やしていくことが課題 である。	併設事業所を利用していただいていた様子や、本人との 日常的な会話、家族からの聞き取りで情報を得る よう努めている。把握した情報は記録し、職員間で 共有している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	安全性を第一に考え、お客様のできる・わか る力を引き出せるように努めている。それ でも、お客様に対して、おもてなしの対応に なっていることもあり、職員間でその人らしい 過ごし方を確認し合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	お客様の希望やご家族の思いが反映され たものとなるよう、サービス担当者会議で働 きかけ、作成している。	入居時に介護支援専門員が契約訪問して暫定プ ランを作成し、その後、日々の関わりの中かで得た 個別留意事項から課題を把握し、担当職員と相談 しながら介護計画を作成している。担当者会議に は本人、家族の参加も得て、希望や意向を把握し ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活において、変化や気づきを記録 (電子化)に残し、全職員の周知が必要な内 容は申送りとして共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の理学療法士のアドバイスを受けた り、併設の小規模多機能を活用している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様は定期的なボランティアの来所や近隣への散歩を楽しみにしている。また、子供たちとの交流を待っているため、小学校や保育所の訪問を依頼している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を維持できるように支援している。	入居前からのかかりつけ医に継続して受診してもらっている。受診時には基本的に家族に同行してもらっており、本人の普段の様子や変化を記したメモを渡したり、併設事業所の看護師がパイプ役となって医師への情報伝達をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師と日常的に情報交換を行い、受診の判断やアドバイスを受けて、健康管理に役立てている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会や退院時のカンファレンスを実施し、病院関係者との関係作りにも心がけている。また、お客様やご家族に不安なく療養、退院できる環境に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所が行えるサービス内容を説明し、支援方針の確認を行っている。また随時、状態変化に合わせて、主治医やご家族との連携を図り、意向を確認していく事としている。	契約時に事業所のできる事・できない事を説明している。本人や家族の意向を踏まえ、事業者が対応し得るケアについて、主治医とも連携しながらその都度家族と丁寧に話し合っていくこととしている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画の急変時対応訓練や感染症予防の他、毎月の会議時に学習時間を設け、お客様の疾病や状態に合わせた学習及び訓練を実施している。	事故発生時や急変時の対応を全職員で繰り返し訓練している。緊急時の連絡体制も整備され、AEDも設置している。さらに、利用者一人ひとりの疾病や留意事項を記載した文書を作成し、緊急時の対応に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練によって連携体制や職員の動きを確認し合っている。また、地域住民への社会資源の観点から、介護を必要とする方の避難場所の位置づけとして、運営推進会議で確認している。	災害時の対応や、避難場所等地域の災害対策については、運営推進会議で意見・情報交換を行っている。ホームでも年2回避難訓練を実施し、委員も参加した訓練も行っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守っていると思いながらも、安全性や事故防止の観点から、過剰介護になり、誇りやプライバシーを損ねる場合も考えられるため、毎月の会議で法人の理念や行動指針に基づいて支援できているかを振り返っている。	入浴時の同性介助への希望に応じたり、居室への入室時には本人の同意を得ること、下着類を他者の目に触れるところに干さない等日常的に細やかな配慮がなされている。また、本人の意思や誇りを尊重し過剰介護にならないよう配慮すること等について毎月の会議で話し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言語障害のあるお客様を通して、お客様の表情や行動に目を向け、職員の押しつけや決めつけになっていないか、希望や思いを無視していないかを振り返る機会ができています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のお客様のペースと職員の状況によって、一日のスケジュールを作っているが、その中で、お客様の意向を確認し、柔軟に支援するよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整える時には鏡に向かうなど、当たり前の意識を失くさないように努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは併設の小規模多機能事業所が主体となっているが、その日の状況に応じて、みそ汁やおやつ作りを行い、楽しみを分かち合っている。また、盛り付けや配膳・片づけはお客様の行えることとして実施している。	盛り付けや配膳、おやつ作り等、利用者の力を活かして一緒に行っている。利用者が落ち着いて食事できるようテーブルの配置や席などにも配慮し、職員も一緒に席について楽しく食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様全員の食事チェックと体重管理で栄養バランスを確認している。水分摂取量が少ない方にもチェック表を活用して、体調の管理に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のブラッシングが定着していない方については、うがいのケアから勧め、一人ひとりの状態や能力に合わせて支援している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握した上で、汚染も極力抑えることができるように、適宜の声掛けやトイレ誘導を行い、一人でできる支援に向けて、方法を検討している。	必要な利用者にはチェック表を使用して排泄パターンを把握し、さりげなく声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を基本として支援している。職員は、本人がトイレに入った後は安全を見届けた上で外に出て待機し、本人の誇りやプライバシーを尊重しながら排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を繰り返すお客様には、多めの水分や入浴時の腹部マッサージ、温湿布、体操などを進めて、自然排便を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の希望によって、午前午後入浴、同姓介助の支援を行っている。入浴拒否ある方には、ストレスとならないようタイミングを図り誘っている。	利用者一人ひとりの希望に沿って入浴回数や時間に対応しており、時には併設事業所の浴室を利用して楽しむ工夫もしている。入浴を好まない利用者には、「きれいにしたい」気持ちに働きかけたり、嫌な経験として記憶に残ることのないよう言葉かけや対応の工夫・配慮をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の体調や希望に合わせて自由に休息できるように支援している。その他、日中の適度な運動、必要な方には電気毛布などを持参してもらい、夜間の安眠を促している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報が一覧できるファイルを整備し、職員がいつでも、用法・用量・副作用について確認できる。受診後は変更有無の確認と修正を行い、一人ひとりの服薬方法で支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の楽しみや得意な事は、個別介護留意事項に記録している。お客様担当職員はその情報を基に活動内容や行事参加を提案し、楽しみへの役割となる支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加や花見・ドライブなど、季節や天候に合わせて外出機会を作っている。事業所内でもテラスでの昼食や日光浴など、季節を感じてもらえる活動も組み入れている。	季節に合わせた外出や、日常的な散歩を行っている。外食時に買い物のお機を作ったり、時にはテラスや併設事業所での食事をするなど、ホームの外へ出かける機会を持ちながら活動的な生活を送れるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物企画し、好みの物を選んでもらう。また、支払いも自ら行ってもらう、金銭の取り扱いの支援も行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持しているお客様もいるが、手紙や年賀状の支援には至っていない。今後、遠方の家族に写真のメール送信を考えている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面畳張り、心落ち着ける環境を提供し、お客様が口ずさめる音楽を流して、居心地の良い空間に努めている。	掃除機やアイロン等の生活用品を利用者が使えるよう準備しており、利用者がそれぞれの得意なことや能力を活かして生活できる環境づくりをしている。テーブルのほか、畳敷きのスペースもあり、利用者が思い思いの場所で過ごすことができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の生活に加えて、畳の良さを活かし座卓を囲めるスペースも用意している。来客時はホールや居室で気兼ねなく談笑できるよう支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からテレビやテーブル、収納タンス、記念の写真、飾り物、花などを持参され、徐々にその人らしい空間になってきている。	家具の配置や飾りつけなど、利用者一人ひとりが使いやすく過ごしやすい居室づくりを支援している。ベッドと寝具はホームで用意したものだが、安眠につながるよう、枕は使い慣れたものを持ってもらっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口には、似顔絵を貼り、目印としている。トイレは、使い慣れた場所へと支援し、迷いや不安を最小限に抑えている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない